

令和5年度 第3回守谷市通学区域審議会会議 議事録

1 日 時 令和5年10月25日(水) 17:00~19:00

2 場 所 守谷市役所1階 大会議室

3 出席者

○委員 (15名中14名出席) 以下、敬称略

- ・越智壽雄(守谷市校長会会長) ※副会長
- ・荒井弘勝(守谷小学校校長)
- ・奈幡 正(黒内小学校校長)
- ・中原卓治(郷州小学校校長)
- ・木下悦郎(松ヶ丘小学校校長)
- ・片岡正美(愛宕中学校校長)
- ・吉田あゆみ(守谷市PTA連絡協議会会長)
- ・佐藤若菜(松前台小PTA会長)
- ・永井祐介(守谷小学校PTA会長)
- ・山本広行(松ヶ丘小学校PTA会長)
- ・藤井穂高(国立大学法人筑波大学人間学群教授) ※会長
- ・村山 守(守谷C地区まちづくり協議会会長)
- ・古屋正博(守谷B地区まちづくりふれあい会)
- ・星野陽子(ひがし野まちづくりの会)

○事務局

- ・小林教育部長、古橋参事
- ・学校教育課 前川課長、坂本課長補佐、菊地係長、中北主任、岡野主任
- ・(株)ちばぎん総合研究所 調査部 福田

4 会議内容(発言の主要部分を掲載)

(1)会長あいさつ

- ・第3回目ということで、事務局から資料の配布があったように、黒内小については今年度中に一定の方針を得たい。今年度は今回を除きあと2回、子どもたちの就学先に関わる部分であるため、慎重にしなければならない一方、忌憚のないご意見をいただきたい。

(2)教育部長あいさつ

- ・黒内小学校の大規模校化の解消に向けた具体的な方策を、皆様のご意見をいただきながら、2回目の答申に向けて協議いただきたい。事務局から試案等を示させていただいているが、これが全てではありません。皆様からご意見をいただき、遅くとも年度末までに固めていきたい。

(3)説明事項

【委員】

- 提案ですが、本審議会は第1回目の際に議事録に発言者の氏名を記載することを決定しました。責任ある発言をすることは当然なのですが、本審議は通学区域の変更という大変難しい問題であり、議論を自由に活発に行うためにも、議事録に発言者を記載しないようにしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員】

- 今後、本丸の議論に入ってくると思うが、その解決策が全ての方の賛同を得られず、賛成の方も反対の方もおられると思う。その辺を勘案しますと、無記名で議事録を作成することに賛成したい。

【会長】

- 今回のような会議では、氏名を明記するメリットがあまりない。当事者がいらっしゃる可能性がある際に、当事者が自由に発言できなくなるというはどうかと私自身も思っている。本会議においては、無責任な発言となる可能性も懸念がないと思われる。今後も責任を持って発言をいただければ、問題がないと思います。
- ご提案のとおり進めさせていただきたい。

① 今後のスケジュールについて

【事務局】

- 資料 No.2「今後のスケジュールについて」、参考資料 1「【三郷市】通学区域変更の決定・実施までのスケジュール」に基づき、今年度内に対策案を決定し、R6年度当初から周知期間を確保できるように進める。学校適正配置基本方針の策定についても、R6年度1月ごろから、進めていきたいことなどを説明。

【会長】

- 事務局の説明について、質問等ありましたらお願ひいたします。
- ないようですので、ご了承いただいたということで、次に進みます。

② R5年度守谷市児童生徒数推計業務について

【事務局】

- 「R5年度守谷市児童生徒数推計業務 報告書」に基づき、児童生徒数推計の結果について説明。

【会長】

- 今の段階でご質問等ありましたらお願ひいたします。

【委員】

- 黒内小の最大値が変わっている。統計的な推定誤差はどの程度あるといえるか。この結果が下振れるのであれば良いが、上振れた場合は大変なことになるため、検討をし

ておく必要がある。

⇒【事務局】

- ・あくまで推計値であるため、誤差は生じる。何名程度の誤差数となるかについては、そちらも推計という話になるので、そこまでは出していない。

【委員】

- ・2~3%の誤差推定はありうる。先ほどの例でもあったように、少しパラメータがずれることで結果が増加することになると心配なので、実施できれば良いのではないか。

⇒【事務局】

- ・向こう5年程度は実際の居住者のデータを利用しているため、誤差は少ないと認識している。その先は推計値となるため、相応のブレが生じると考えている。

【会長】

- ・0~6歳の今いる人口は把握できるため、その子どもたちが小学校に入っていくということは分かると思うが、大規模な開発の有無について、5~6年先まで把握しているのか。

⇒【事務局】

- ・大規模開発は見込んで推計を出している。資料の8Pに記載のとおり、番号1~9までで把握している大規模な開発および集合住宅の計画を反映させた形で推計値を出している。

【会長】

- ・R5年度やR6年度の記載はあるが、6年後などは分かるのか。大規模な開発については、市の全体の計画などに書かれるものであるのか。

⇒【事務局】

- ・都市計画決定が伴うものは先まで見込んで推計しているが、民間事業者の開発行為については市でも把握できない。

【委員】

- ・黒内小の最大キャパシティに対して、推定値がどの程度余裕があるのか。余裕が十分にあるのであれば問題はないが、それがギリギリだとしたら上振れたときに問題になる。

⇒【事務局】

- ・来年度も推計業務を行う予定であるため、その辺も考慮して実施したい。

【委員】

- ・守谷中学校の今年度の第2学年の生徒数について、現在の133人が、次年度の3

年生時に 150 名となっており、17人増加となるのは、開発や転入を考えた数値なのか。

⇒【事務局】

- ・ あくまで推計値となり、開発を含めた数字。実際の生徒数とは乖離する可能性はある。

【委員】

- ・ 次年度の学校規模は 3 年生を 4 クラスで考えていたため驚いたが、17人の乖離は大きい。単純に 17 人も転入はないと思う。

【会長】

- ・ あくまで計算上の話であり、通学している 1 年生がそのまま 2 年生になるのであれば 数は大きく変わらないが、統計的に出すとこの数字になるということで認識した。
- ・ 他になければ、これについては説明を受けたということにしたい。

(4)協議事項

① 黒内小学校通学区域変更案の検討過程について

【事務局】

- ・ 資料No.3「黒内小学校通学区域変更案の検討過程」、資料No.4「黒内小学校通学区域変更(案)」に基づき、事務局の変更案およびそれに伴う児童数の変化等を説明。
- ・ 御所ヶ丘小学校への通学区域変更案は、通学道路の安全性がデメリット、御所ヶ丘小学校の受入体制に余裕がある点がメリットとなっている。対象児童数は少ない。
- ・ 松ヶ丘小学校への変更案は、子ども会が分断され、地域の一体性が失われる可能性がある点がデメリット、距離的に近い松ヶ丘小学校に通学できるという点がメリット。
- ・ 守谷小学校への変更案は、通学距離がデメリット、自治会等を分断して構成されている現通学区域が一体性を確保する機会となる点がメリット。

【会長】

- ・ 事務局から過大規模化を解決する方法の一つとして通学区域の変更案を示していた。今回を除いてあと2回で具体的な案を固めていくため、今回決定するわけではない。まずは通学区域の変更案として数字を出したものについて、ご質問等をお受けして理解を深めるということにしたい。
- ・ ポイントとなるのは、通学区域にいる児童が全員移るわけではなく、新入生から段階的に移っていく。他自治体での通学区域の変更は全学年が移ることが通常であるが、本案はそうではなく第 1 学年のみを対象とするという点は、資料だけみても分からぬいが、説明を聞いて理解した。
- ・ なかなか理解することも難しいと思うが、分からぬい点があればご質問いただきたい。

【委員】

- ・ 自治会別の推計値について、ひがし野4丁目の実態とはかけ離れていると感じている。

ひがし野 4 丁目は全部で 27 世帯の戸建てがあり、51戸のマンションがある。土地の間隔を考慮するとこれ以上住宅が出来る地域ではないと考えている。現在は、年少の子どもが最年少で、かつ1人しかいないと思う。また、就学前の子どもがいる世帯も兄弟がいる方が多いため、兄弟がいる黒内小に通学することになるのではないか。印象としては、中学生の世代が多く戸建て世帯が多い地区のため、これ以上児童数は増えないと感じている。

- ・マンションの 51 戸も2~3LDK なので、2033 年の数値などは信じられない。ひがし野 4 丁目のことしか分からぬいが、他の地域も推計値であるため、思った以上に黒内小が減らなくなると、通学区域を変更しても効果があまりないと懸念している。
- ・また、ひがし野 4 丁目から守谷小までは、子どもの足で 30 分の登校は無理と感じている。
- ・個人的には、もっと大きなところテコ入れしないと、大幅な改善は難しいのではないかと考える。ひがし野1丁目は 0 人となっているが、賃貸住宅の児童が通学班で 2~3 班あると聞いており、その児童は入っているのか。現状を踏まえると、ひがし野 1 丁目はもう少しいると感じており、推計値には疑問が残る。

【会長】

- ・ひがし野 4 丁目は、委員のお話だと 0~5 歳は 1 人ということになるが、2027 年の推計では 15 人となっている。

⇒【事務局】

- ・推計値についてですが、この地区は戸建てとマンションを一括で推計している。また、兄弟の有無は把握できないため、兄弟がいても守谷小に通学するという前提で推計している。
- ・R16 年度などの推計値は統計上の数値となり、女性こども比として、20~44 歳の方も増えていくという前提で算出しているため、このような数値になっている。
- ・0 人になっているひがし野1丁目について、実際に通われている方がいることは、こちらでも把握しているが、地区内で区域が分かれているため、統計上は守谷小に計上されている。

【委員】

- ・通学区域の変更をしたとしても十分ではないという事務局の説明を聞き、その通りだと認識した。
- ・通学区域の変更案の数字をみると、R7 年度が 1,323 人となっており正直な所、圧倒された。別の委員が話題にされたとおり、箱物としての教室数のおさまりと、児童数・学級数に応じた適正な教育環境というのは一致しないことは、ご承知おきのとおりと思います。
- ・R6年度の変更後の数値は今、学校現場の想定している数字とは若干異なる。想定では通常学級数が38、1 年生 8 クラス、特別支援は減少が想定されているが、それでも 9~10 クラスになるだろうと、4 教室増える想定をしている。普通教室の大きさの教室は、生活科室と学習室の2つしか残らない。この教室も空き教室ではなく、目的をもつ

て活用している教室であり、残りは全て授業で使用しているという状況にある。

- ・また通常、同学年は同じフロアで固めるが、既に現状で2年生と5年生の1クラスは別棟に1クラス配置されている。現在の1,177人でも、既に通常の教室配置とは異なっている。R6年度から区域変更を考えるにしても、R6年度の1,276人以上の児童数は、今の施設では望ましくないというのが率直な感想。
- ・事務局からも、体育の授業などで制限があるという説明があったが、通常学級35の現状、1時間あたりに校庭と体育館を合わせて低学年で6クラス、中・高学年で4クラスを同時に入れている。それが全てのコマで埋まっている。
- ・雨が降ったり、熱中症アラートが発生したりすればその半分しかできない。他小学校でも雨が降れば体育館は取合いになる状況と認識しているが、黒内小学校では既に体育館が全て埋まっている。運動会前の猛暑日に、1年生が教室でダンスの練習をしている光景も黒内小学校ならではの光景といえる。
- ・体育館でしかできないマット、跳び箱、短縄跳びなどについては、4もしくは6クラスを同時に行えない。体育の年間指導計画では実施時期も決まっているが、同時期に実施することの難しさについて、教務主任、学年主任などが相当苦労してどうにかはめ込んでいる。
- ・理科室も6年生5クラス、5年生5クラスで全コマ埋まっている。さらに週に3コマは5年生と6年生がブッキングしており、理科専科教員が相談しながら調整している。まとめやテストなど教室でできるものを工夫してやり繰りしている状況で、4年生以下が理科室を使う機会がない。5・6年生が今の5クラスから、6～7クラスになったら絶対に回らない。図工も同じで5・6年の5クラスで週3日は完全に埋まっている。中学年が使用する場合、残りの2日で10クラス以上が調整する必要がある。図工は全てを図工室で行う必要はないが、調整はギリギリでやっている。
- ・英語は2人の英語専科の先生を配置していただいているが、1～6年の全学級に入っていますが、現状で1人の方のコマ数は全て埋まっており、空き時間はない。もう1人の方もギリギリで、次年度想定のように3クラスが増えると、折角の専科教育の恩恵を受けられなくなることも想定される。
- ・児童数・学級数に応じた教育活動はギリギリのところで隙間をぬって成り立っているところ、R7年度の1,300人台は組み合わせも含めてイメージしにくく、困難であると感じている。
- ・先週の運動会は4年ぶりに1日で開催したが、1日で600人の運動会を2回実施している。兄弟がいる保護者は1日立ち見となる。子ども達は満足しているかもしれないが、すべての学年を眺め見るということは、今の子ども達はできない。関係者の方々の協力がなければ実施できない運動会であったと認識しているが、その辺もご配慮いただけたとありがたい。
- ・通学区域変更案の数字の減り方が1,300人を超えるケースでは、円滑な教育を行うイメージを持つことはかなり難しい。

【会長】

- ・教育条件でいうと今年度で既に限界という状況であると認識した。

【委員】

- ・ 現場の意見が全てであるが、今回の審議会はそもそも論、黒内小を救わなければならないということである。(徒歩圏内の通学区域変更で)ピーク値が下がったとしても 1,355 人。これでやつていけるかという点について、教育委員会の方で、この場合はこうするという裏打ちがないとナンセンスに感じた。
- ・ 兄弟の有無にかかわらず推計しているということは、この数値よりも黒内小に通う可能性のある児童がいるということであり、この 1,355 人という数字も絵に描いた餅にしか感じなかった。
- ・ ただし、変更を 1 年生からとしている点は地域の方を考えており、また 20 分圏内から考えていったという経緯は、とても納得できた。
- ・ 表によって数字が異なるという点は呑み込めていないが、減らしたとしてもピークが 1,355 人という話では通らない。

【会長】

- ・ 事務局案としても通学区域の変更だけでは難しいという理解の上で、手続きとしてはこの範囲で収まるのであればこの案が良いが、収まりきらないとの共通理解が皆さんと共有できたと思う。通学区域だけでは抜本的な対策にはならないことを数字的に確認したということになる。
- ・ 通学区域を変更した方が良いという考え方もあるが、とりあえずもう1つの方針も合わせてご説明いただいた方が良いのではないかと考えるので、黒内小学校通学区域変更(案)についてご説明いただきたい。

② 黒内小学校通学区域変更(案)について

【事務局】

- ・ 第2回審議会では、まずは徒歩圏内で検討できる通学区域の変更を行った上で、不十分であれば通学手段の工夫による何らかの対応をプラスしていくという方針で提案していましたので、これから説明する試案 1 および試案 2 についても、通学区域の変更を行った上で更に試案を行った場合、児童数がどのようになるかという説明となる。
- ・ 移動対象を 1 年生のみに限定しない、徒歩圏内の通学区域変更が焼け石に水なのであれば試案のみというご意見もあれば、協議させていただきたい。
- ・ 前回の審議会で提示した残りの対策は、(1)通学手段の工夫による変更、(2)近隣中学校との一部一体化、(3)教育特例校制度の導入の 3 つとなる。
- ・ このうち、教育特例校の導入に関しては、現在、市内全校が英語の教育課程特例校となっており、新分野の特例校となるためにはこれを解除する必要があることから、事務局としては実施が難しいと考えている。仮に実施したとしても、当該学校に通うかどうかは希望選択制となることから、学校を移動する人数の把握は困難である。そのため、黒内小学校の規模適正化の対策としては考えないこととし、シミュレーションも行っていない。
- ・ 試案 1 はスクールバスを運行させ、通学区域を変更する案となっている。徒歩圏内通学区域変更のみ実施しただけでは、ピークの数字は 1,300 人台。800 人台となるの

が、R7 年度に対策を開始したとしても 12 年後、900 人台になるのも 9 年後となる。これをより早めるため、ある程度児童がいる地区を、スクールバスを利用して移動させるパターンが試案 1 となっている。

- ・市内で比較的教室数に余裕がある学校は高野小、郷州小であるが、アクセスを考えた結果、試案 1 では郷州小を対象と想定している。
- ・対象地区は一定の児童数があり、通学路の混雑緩和にも結び付く松並青葉地区を対象として検討する。松並青葉地区には松並青葉西、松並青葉東、レーベン守谷の 3 つの行政区があるが、新入生を移動対象とする、また全ての保護者から同意を得られた場合であっても受入が可能な規模となる、自治会・自治体としての一体性が損なわれない、と言った点を考慮し、松並青葉東地区、町名では松並青葉 3~4 丁目を移動対象地区案として選定した。
- ・試案 1 では、松並青葉 3~4 丁目を対象としているが、他の対象地域案、通学区域の変更は行わない、新入生からではなく全学年を対象とすべき、などの意見もあると思いますので、説明後にこれらの点についてご意見いただきたい。
- ・スクールバスの検討にあたっては、移動のしやすさ、自治会の一体性、中学校も含めた移動先の受入可否状況、受入先のバス駐車場の場所など全体的に考慮することになるが、まずは試案について皆様からご意見をいただきたい。
- ・試案 2 は黒内小学校の進学先となる守谷中学校に黒内小学校の 6 年生を移動させる案となっている。本案では守谷中学校の生徒数が R12 年度に最大で 1,007 名となり、現在の教室数では受けきれず、本案を実施する場合は敷地内にプレハブを設置することとなる。
- ・教室数は充足するが、理科室等の特別教室をプレハブに整備することは困難であるため中学校の特別教室を利用することとなるため、授業コマ数を小中で確保できるかを十分に検討する必要がある。
- ・一定期間を利用するためのプレハブ施設は 1 年程度が必要。また、守谷中は昨年度に校舎増築済みであり、更に新たなスペースを確保するためにはプールを撤去する必要があり、そうすると更に工期が伸びることから R7 年度からの実施が間に合わないと結論に至った。
- ・最終的に、試案 2 を実施した場合、黒内小本校に残る 1~5 年生が 800~900 人台となるのは先の話となることから、事務局としては本案は採用不可と判断している。

【会長】

- ・黒内小学校の児童数を減らすための幾つかの案のうち、試案 2 はご説明のとおり難しいということになり、試案 1 しか残らないということになる。
- ・試案 1 は、通学区域の変更をした上で、特定の地区を別の小学校に移すという案になっている。本案は 1 年生のみであるが、私は様々な自治体で適正配置に関わっているが 1 年生のみを順番に移すということは見たことがないが、地域の方々にとって 1 年後にはこうなりますということを公示した上で、新入生からバスで新しい小学校に通学するというのは、摩擦が比較的少ない手法とは思う。しかし、そうすると児童数がそれほど減らないということが悩ましい。黒内小の児童を大きく減らすとなると、色々な地区の児童が変更してもらう必要があるかもしれない。

- ・まずはご質問、ご意見等をいただき検討したい。

【委員】

- ・郷州小の保有普通教室22のうち、児童クラブが1教室利用しているため、21で検討した方が良い。また、特別支援学級について現在で4教室あるため、3～4丁目児童が移動した場合、+4教室の特別支援学級を追加で考えた方がよい。そうするとR11年度などで、ギリギリの水準となると思う。
- ・敷地内で児童クラブを使用している、新たな入学児童の児童クラブ利用を想定すると場所が足りない。そうすると、松並青葉東地区の児童は、自宅に近い学校の放課後児童クラブを利用することなどを検討する必要がある。
- ・本校だけとは限らないが、兄弟がいる場合は新入生と別々になると抵抗はあるが、そうすると黒内小の人数が減らない。その辺のシミュレーションはどうしているのか。

⇒【事務局】

- ・数字のみをシミュレーションしており、対象児童における兄弟姉妹は考慮していない。全員に理解を得られたとしたらという前提。そのため、通学区域の変更に加え、スクールバスの活用を行ったとしても、1年生に対象を限定すると、この推計以上に黒内小に残るということは理解しているが、その割合の仮定値がおきづらい。
- ・もしくは、どの程度の保護者の方から理解を得られるかは分からないが、全学年で実施するという二択しかないと考えている。

【委員】

- ・かなり実際的になってきたとは思うが、それでもR7年度に1,303人という水準は気になる。また、受け入れ側である郷州小の児童クラブのキャパシティも踏まえ議論していければ良いと思う。
- ・この1,300人という水準は厳しいでしょうか。

【委員】

- ・1,300人を超える水準は難しいというのが率直なところ。1,200人を超えるということがそもそも、箱物としての収まりと教育活動の適正な運営で相当イメージが違う。教室に行きにくい児童が相談室でクールダウンしたり、勉強したりする部屋もない。母数が大きいため、様々な子どもがいるが、市内に4校で設置されているフリースペースが黒内小にはない。
- ・教職員も94名の教職員が職員室に一斉に入ることが勿論出来ず、情報共有をしたり対面で議論したりすることも困難。教職員の観点からも100人増加した際にどうなるのかとは感じている。

【会長】

- ・第1回目の答申案で若干名は減るとしても、来年の話の時点で、学校運営が既に厳しい。本会は学区の審議会であり、来年度からの学校運営への対応については、この審議会ではできないが、大きな問題だろう。

- ・ 試案 1 は松並青葉3・4丁目だけであるため、松並青葉 3・4 丁目で決まっているという印象になるが、本来であればその辺も記載いただければよかった。松並青葉 3・4 丁目が望ましいかについては、他のシミュレーションと比較してみる必要がある。あるいは 1 年生だけではなく全体を移した場合はどうなるのか。それでも郷州小に受入は可能であるのか。

⇒【事務局】

- ・ 一気に移した場合は最高で577人の児童数となる。特別支援教室数までは考慮していないが、単純に35人学級として割り返した場合、受入は可能となる水準と考えている。全員を受け入れ、特別支援教室が想定より多くなった場合は、一つの教室を半分で割ったり、という工夫をしていただく必要は出てくると思われる。
- ・ 児童クラブの担当部署とも協議しているが、基本的には郷州小に通う場合は郷州小の児童クラブとなり、そうすると児童クラブの増設ということになる。
- ・ 松並青葉 3・4 丁目の全学年が移動した場合、R7 年度の 1,303 人が 1,144 人となる。
- ・ 対象地区の全学年児童を移した場合は、郷州小の設備で何らかの対応が必要となる。1 年生だけの移動とした場合は、黒内小学校の減数効果がすぐに出ないため、黒内小学校の理科室等不足に対応する必要がある。職員用駐車場に特別教室用のプレハブを建設したり、体育については高学年を近隣の常総運動公園で実施する、などといった手立てが必要になるかもしれない。

【会長】

- ・ 次回はシミュレーションの範囲を広げて、その場合の郷州小の受入を丁寧に示していただきたい。1 年生だけのパターン、全学年のパターンなども示していただきたい。
- ・ ただ、今の話だと松並青葉 1・2 丁目を受け入れることは難しく、3・4 丁目に限られるということに實際にはなるのか。

⇒【事務局】

- ・ シミュレーションは實際に行ってみないと分からないため、実施する。

【会長】

- ・ そうなると 1 年生だけのスクールバスが沢山走るということになりそうではあるが、1,300 人ということが想像できず、今ですら学校運営が大変なのであれば、そちらへの対応も実施していただきたい。
- ・ 最終回は細かい部分を検討していただくということになると思いますので、実質的には次の回で方針を固めないと間に合わない。
- ・ 今回は通学区域の変更だけでは難しく、それに加えてどこかの地区を他の学校に移動させるという想定で原案を示していただいたが、試案 2 は難しく、試案 1 で練っていくということになると思います。黒内小がどこまで維持できるのかということはあるが、郷州小との兼合いも総合的に考え、できるだけ良い着地点を目指していくということで検討していきたい。

【委員】

- ・ こうなると自治会で区切る必要があるのかという考え方もあり、松波青葉 3 丁目と 4 丁目が別の学校ということも検討した方が良いのではないか。
- ・ また、守谷市だけではなく、つくばみらいなどでは学校の統廃合も行っているため、そういった学校に受け入れてもらうということもあるのではないか。自治体を跨ぐため難しいとは認識しているが、可能性があるのであれば検討した方が良いのではないか。

【会長】

- ・ 大胆なご意見はあるが、他の市町村は難しいとは思う。本来は市の教育委員会の責任であり、そうであれば新たな学校を整備すべきということになると思うが、それでは間に合わないこともある。

【委員】

- ・ 1年生から移すのであれば松並青葉 3・4 丁目に限定せず範囲を広げるべきではないか。一括とするのであれば、3・4 丁目だけの案でも、黒内小としては良いかと思うが、そうすると、郷州小のキャパ問題、教育課程や施設問題が生じてしまうなら、おかしな話となってしまう。
- ・ 黒内小の保護者と話すと、もう1つ学校をつくるしかないレベルという話になってしまい。保護者側としては市内では受けきれないという認識になっている。新たに校舎を建て、全国的に不足しているという教職員を集めることは、現実的でないのはよく分かっているが、様々なシミュレーションは必要と感じている。
- ・ また、今は学級数の話で進んでいるが、現状 1 クラスの児童数は上限であり、他の学校の話を聞くと教室や授業数に余裕がある。
- ・ 保護者目線の話をすれば、黒内小は習字道具や絵の具、ピアニカなどの荷物を置いておけない状態。小さい 1 年生もその都度、道具を持ち帰っており、学級数だけで決めて欲しくないとも感じている。
- ・ また、支援教員は学級数で決まっていると聞いているが、その辺も保護者目線では心配。上限で検討しているが、個人的には 1,300 人どころか 1,200 人台もあり得ないと思っている。

【委員】

- ・ 認識を確認しておきたいが、通学区域の変更をしても黒内小の児童数に対しては大きな効果はない。通学区域の変更をした上で松並青葉 3・4 丁目を移動させるのか、それほど変わらないのであれば通学区域の変更はせず、松並青葉 3・4 丁目だけを移動させるのかということの議論は別になる。
- ・ どこまでを巻き込むかということはあるが、結局は何処かしら動かさなければならぬという結論になったのであれば、通学区域の変更は行わなくとも良いのではないか。
- ・ 5 年後、10 年後を見据えていくと今のうちに変えておいた方が良いのかもしれないが、黒内小が窮地にあるため、結局スクールバスで移動しなければならないのであれば、

その地域の方の理解を得ることを想定した上で議論をしていくしかないのでは。

【会長】

- ・通学区域の変更と合わせるかどうかについては、試案 1 では合わせているが、効果がなければ行わないという選択肢はある。
- ・通学区域の変更は簡単にはできないため、必要がある地域については、この際に実施した方が良い。大きな道路を渡らないようにするなどであれば、人数とは別に実施した方が良いのでは。
- ・スクールバスであれば、郷州小ではなく他の学校もありうるのかという点についても、シミュレーションしていただいた方が良い。ただ、バスで遠くなるということであれば、どの程度遠くなるのかということも出していただきたい。

⇒【事務局】

- ・直線距離では出しており、黒内小からは大井沢小まで 2.1 km、大野小が 2.1 km、高野小は 2.7 km、守谷小は 1.6 km、御所ヶ丘小は 1.7 km、郷州小は 2.9 km、松前台小は 2.5 km、松ヶ丘小は 1.3 km となっている。
- ・バスの移動時間は距離だけではなく、通行しやすい道路があるかどうかにもかかっており、その点から、今回は距離的には最も遠いが 1 本の道路で移動できる郷州小で検討している。

【会長】

- ・郷州小のキャパの問題で減らないということであれば、別の小学校にどの程度移せるのか、もしくは移せないということを示していただきたい。そのデータがないと議論ができない。
- ・小学校 1 年生からということであれば、どの程度の範囲で広げれば、黒内小学校の児童が減るのかということを示していただかないと分からぬ。どの組み合わせだと、どの程度の児童数になるかを示していただきたい。
- ・ある地域だけというのは、教育委員会としても説得するのが難しい場合もある。

【委員】

- ・大変ではあるが、色々な想定の数値を用意して欲しい。1年生から順番にという案は皆様には優しい。そうすると松並青葉 3・4 丁目に限らず、広範囲の 1 年生を移動する可能性がある。
- ・議論の中で、我々が特定地域全体を移動しなければならないという結論に達してしまうかもしれないが、地域の方の理解を一番得やすいのは、1 年生からバスでというのが現実的ではある。
- ・複数校にバスとなると、財政的なデメリットも出てくるが、松並 3・4 丁目を移動させるケースや他の複数地域の 1 年生から移動させるケースなどで、この 1,300 人という水準をどのように下げていくかということになる。受入側は上限で、黒内小では下限で見ていく必要がある。
- ・また、来年度に黒内小にはどのようなケアをしていくということは、ここで議論するこ

とではないと思うが、来年どうするのかということが非常に心配。

【会長】

- ・学校の新設は、今後 30 年くらい児童がいるというデータが必要。費用も 30~40 億、今はもっと高いかもしれないがかかる。それだけの児童が 20 年後にはいないということでは費用対効果が悪いという話になる。
- ・2043 年度においても 1,000 人以上という想定であるため、本来は新設も数値上はありうるが、学校用地にできる条件は限定されているので、その用地が地域になければならない。つくば市は、それで揉めに揉め、学校は建てたが、外れの外れに建てている。そのくらい市有地を確保することは大変。

【委員】

- ・冒頭の議論を踏まえると推計が心配。通常であると、過去のデータを使って実態値と比べることによってモデルの精度を見ることができるが、それを一度やっていただいた方が良いのではないか。それで精度が高ければ安心できる。
- ・資料のつくり方は、実施したこと全て説明していただいたことはありがたいが、実現性のないものは簡単で良い。むしろ、可能性があるものについてのシミュレーションを丁寧に説明いただいた方が議論は早いのではないか。
- ・時間的には遅れていると考えており、残り 1、2 回で決めるのにもかかわらず、半分位の進捗であると感じており、議論を加速する必要がある。そのためにはシミュレーションの対象も絞り、さらに先ほどのコスト、様々な物理条件などを検討し、全体的な実現性を踏まえて提案いただきたい。次回からは総合的に実現可能性のあるプランを提示いただけだと議論ができるのではないか。そのため次回にお示しいただけるシミュレーションのパターンを整理いただきたい。
- ・また、黒内小の兄弟の歩留まりはあるので、考慮しないと詳細の検討はしづらい。

【会長】

- ・当初の計画ではゆっくりすぎるとのことでの急いで対応いただいたが、次回にどのようなデータが出てくるのかを事前に把握したい。
- ・もしくは原案を作っていただき、委員に見ていただくようにしてはどうか。事前にシミュレーションのパターンを示していただき、追加の要望等があれば対応いただく。

⇒【事務局】

- ・次回に示すシミュレーションを事前に資料としてお渡しして、議論をいただきたい。

【委員】

- ・推計値についてかけ離れている点を心配している。まちづくりの会として参加しているため、実態をお伝えすることはできると思う。

【委員】

- ・実態ということであれば、学校で在籍している兄弟、これから入学してくる兄弟などに

ついてアンケートをとれば良いのではないか。

⇒【事務局】

- ・行政区ごとに、在籍している学年と兄弟などについてアンケートでご回答いただけるのであれば、現時点での状況を把握できるのでありがたい。そこに通学区域の変更があった場合に、協力いただけるかといった設問を入れれば割合は出る。
- ・ただし、昨年度実施したアンケートでも総論としては通学区域の変更は受け入れられているが、ご自身の地区で実際行われるとなった場合についてはどう希望するかが、匿名のアンケートでは見えてこない。割合という話があつたが、実際にどこまで出せるかは難しいと考えている。ある程度決め打ちで推計するしかないと、本日の議論でも感じている。

【委員】

- ・地域の意見をもう少し踏み込んだ設問などで把握することで、方向性が見えるのではないか。すごく否定的であるのか、協力する方が多いのかというような黒内小の実態が分からぬままで進めて良いのかと感じている。
- ・結果に直接反映されるということでなくとも、地域の意見が多少なりとも反映されるのではないか。

【会長】

- ・それが12月までに出来るのかという点はある。基本的には自分の子どもが移動するということとなると賛成はしないのではないか。あまりに多いため移りたいという方はいるとは思うが、なぜ自分の地区でという話になるかもしれない。
- ・行政として、どの地域の児童をどの学校への通学を保証するかは、ある種、教育委員会の権限ではあるため、責任を持って検討していけば良いのではないか。

【委員】

- ・どのようになるかが分からないという意見は聞く。バスが出るならば良いという意見もあり、私自身の周りではあまりネガティブな意見はない。逆にはっきりして欲しいという方の方が多い。

【委員】

- ・他の小学校に行かなくてはならない人は増える。黒内小の現状を何とかしたいという感情が強いが、人の感情を全て考えてしまうと行き詰るのは必至。
- ・黒内小の児童に少しでも快適な環境を用意するため、敷地内に新たな施設を整備するなどにより、R6年度の黒内小には頑張ってもらいたいという感情が強くなってしまう。逆に根底的に、なぜ黒内小がここまで状況になってしまったかという意見が出てしまうと、区域変更や移動などの議論がレールに乗らない気がする。
- ・次年度に関しては、黒内小に様々なケアをする必要がある。その部分を突かれることが一番厳しいのではないか。

【委員】

- ・根本的には、黒内小が一杯であるからなのではあるが、説明する際には黒内小よりも郷州小の方が良いということを示す必要がある。例えはではあるが、現状はこうであるが2年後にはこのように改善します、といった準備も含めて案を検討いただきたい。その方が移転する方も良い印象を持ち、上手くいくのではないか。

【委員】

- ・児童クラブなども含めてトータル的なケアをするなども必要。移転された方が郷州小まで迎えにいくことは大変。

【委員】

- ・授業参観や運動会はどうなるかを聞かれる。駐車が出来ないため何らかの対応が必要。

【委員】

- ・スクールバスに乗り遅れた場合にどうなるのかなど、様々な問題が出てくる。そういうことを準備しておく必要がある。

⇒【事務局】

- ・スクールバス運営上の課題は、バスの停車場所、児童クラブの送迎、児童が増加した場合の便数、学校行事の保護者の駐車や送迎、遅刻や早退への対応などがある。スクールバスでの送迎を実施している自治体等から実態を把握したいと考えている。

【委員】

- ・つくば市の義務教育学校はどうなっているかの実態を把握されているか。

【会長】

- ・つくば市の義務教育学校は規模が大きいため基本的には分離している。つくば市は北部の児童数が減少しており6～7校をまとめて1つの中学校を整備しており、バスが何台も走っており、お金は相当かかっている。
- ・今回の場合は1校から1校ではあるが、それが広がっていくとそれなりに費用がかかる。次回に大枠の部分を決めることで細かな部分も出てくると思うが、大枠を決めないと議論ができないため、その部分を固める資料を準備いただきたい。どのようなデータを示すのかも含めて委員の方に一度お示しいただきたい。

【委員】

- ・移動する児童を増やしたいということを、保護者の気持ちに寄り添いながら考えると、松並青葉3・4丁目に限定しても良いが、在校生でも移動の希望があれば地域に限って対応しても良いのではないか。広い地域とすると大変になってしまふが、地域を絞ってあれば良いのではないか。

(5)その他

【事務局】

参考資料2に基づき事務局から説明。

黒内小学校からの就学校変更申出は、本日時点で松ヶ丘小学校 1 件、御所ヶ丘小学校 1 件で計 2 件。

議事録署名人

木下 悅郎

中原 卓治